

報告事項 2023（令和5）年度活動の状況について

概況

1. ミールズ・オン・ホイールズ ロジシステムを活用した食支援プラットフォーム形成

こども食堂、地域食堂、老人給食、食生活改善グループなど広義による「食のある居場所づくり活動」を支援する協議体形成を目指したプラットフォームを推進するためには、地域外からのリソース（運営ノウハウ・企業からの食料支援など）の活用と、自治体の枠を超えた横断的なネットワーク機能が必要だと考え、持続可能なモデルづくりを目指す地域の事例収集・伴走支援に取り組んだ。行政や社協が苦手とすることを自治体ごとに整備するよりは、広域的に、かつ専門領域で活動する団体より必要な支援（リソース）を収集することの意義について協議体の形成支援、事例分析、研修会での報告等を通じて可視化できるようになった。

2. ミールズ・オン・ホイールズ ロジシステムを通じた企業連携の加速

ロジハブをプラットフォームにインフラ整備に対する助成や寄贈食品・物資の提供、物流・倉庫支援、広報支援など多様な連携が生まれている。農林水産省や消費者庁、こども家庭庁等複数の省庁と定期的な情報交換を行う中、社会的な信頼が少しずつ前進し、倉庫協会やトラック協会などの広域的な窓口へもアクセスすることができた。一方、寄贈に関してはWEBシステムの浸透、各企業とスキーム化を試みているが、寄贈調整やWEBシステムの管理運用など中間支援機能にかかる費用面での支援は一定程度にとどまっている。さらに2024年問題で今後さらに物流企業からの支援のハードルがあがることが想定される。食品製造企業等に対しては、食ロスを削減すると共に社会に食品を還元するためにも食品を全国に効率的に配分するためにロジやハブ拠点までのデリバリーコストなどの運営経費負担・中核ロジ拠点の整備に対する支援について、関係省庁にも要望しながら働きかけを行う必要性がある。

3. 食を通じたアウトリーチ活動の継続+利用者へのエンパワーメントの必要性

昨年度に続き見守り体制強化のための広報促進事業やひとり親家庭等子どもの食事等支援事業を通じて、全国において困窮する子育て家庭等への食支援団体への支援や先事例の調査を行った。コロナが5類に移行してもなお、物価高騰等により会食型の居場所を再開させる一方で食支援活動を継続している。また、食支援だけでなく相談支援や生活支援の取組みを基礎自治体と連携して行っている状況がうかがえる。今後、持続可能な支援にするためには対象者自身が課題を乗り越える力に着目した支援も必要になると考え、支援力を強化するためのノウハウや子ども自身が状況を把握すると共に解決の糸口をつかむための情報をガイドブックにまとめて発行することができた。

I 法人本部

1. 広報普及活動

- ① 定期刊行物「いただきます」（16号・17号）を会員および関係者に郵送
- ② 正会員向け（登録 127 会員）および子ども食堂メール会員（1183 会員）へメールニュースの発信（vol.63～vol.83）。
- ③ 各種寄付ページの更新、内容充実（Yahoo! ネット募金・ぼちっと基金・つながる募金、遺贈寄付 Readyfor との連携等）
- ④ メディア掲載「生涯学習やまがた」（2023 年第 28 号）、「月刊福祉」（2023 年 8 月号）、「読売新聞大阪版」（2023 年 4 月 5 日）、「物流ウイークリー」（2023 年 10 月）、「物流ニッポン」（2023 年 9 月）「物流ニッポン」（2024 年 3 月）に記事掲載。

2. 研修活動

① 食でつながるフェスタ全国集会 in 東京 2023

開催日：2023 年 8 月 10 日（祝）10:00-16:00

会 場：東京ボランティア・市民活動センター オンラインとのハイブリッド開催

参加者：約 150 名（会場 85 名、オンライン 65 名）

内 容：

<基調報告> 「食」の力と居場所づくりについて 講師 サヘル・ローズ氏

<対話> 食でつながる地域づくり サヘル・ローズ氏 × 全国食支援協 専務理事 平野覚治

<分科会>

- ・ 食と高齢者、多世代食堂について NPO 法人アテラーノ旭 遠藤 穰 氏
- ・ 食と見守り活動、ネットワークづくりについて 女性を元気にする会 ゴージャス理枝 氏
- ・ 広域的な食支援構築 千葉大学人文科学研究院 清水 洋行 氏

② 第 12 回 地域の居場所づくりサミット（主催キューピーみらいたまご財団に共催協力）

開催日：6 月 17 日（土）10:00-12:20

会 場：キューピー株式会社 本社ホール ※オンライン開催

参加者：約 140 名

内 容：食育や食の居場所づくりに関する講義、事例報告

③ 「支え合いをひろげる住民主体の生活支援フォーラム」（全社協主催事業に共催協力）

開催日：10 月 20 日（金） 会場：オンライン開催 参加者：約 124 名

内容：基調提起「分野を超えたネットワークづくり」（専務理事・平野登壇）

第 1 セッション、第 2 セッション登壇者のご紹介

④ 第 13 回 地域の居場所づくりサミット（主催キューピーみらいたまご財団に共催協力）

開催日：11 月 3 日（金・祝）10:00-12:20

会 場：キューピー株式会社 本社ホール ※オンライン開催

参加者：約 140 名

内 容：食育や食の居場所づくりに関する講義、事例報告

⑤食事サービスを考えるつどい（東京食事サービス連絡会と共催）

開催日及び会場：1月11日（木）14:00～16:00 オンライン開催

講演：フレイル予防について 講師 東京都健康長寿医療センター 秦俊貴氏

事例：食事サービス団体と地域包括支援センター・生活支援コーディネーターとの連携事例

東京都稲城市（支え合う会みのり×SC）／東京都大田区（こぶしの会×包括）／

東京都豊島区（豊芯会×ケアマネ事業所）

3. 活動審査・評価等

①みずほ教育福祉財団 電気自動車寄贈団体の推薦 会員に要項配布、2団体を推薦。

②キューピーみらいたまご財団助成プログラム B「食を通した居場所づくり支援」助成事務局

2024年度分 B-1「居場所づくり支援」応募 50 件 27 団体選出

B-2「スタートアップ助成」応募 52 件 37 団体選出

B-3「冷凍冷蔵庫助成」応募 17 件 16 団体選出

B-4「食支援助成」応募 65 件 49 団体選出

③毎日新聞東京社会事業団「こども食堂運営継続応援プロジェクト」助成事務局

応募 86 団体のうち 48 団体を選出

④24時間テレビ助成事務局

実施内容：ミールズ・オン・ホイールズ ロジシステムを通じて、こども食堂を通じた食支援や体験機会の提供を実施している団体に対する、活動を続けるうえで必要となる備品の支援。

対象：現在ロジハブ拠点を担っている団体に加え、今後ロジハブ拠点として新規立上げを予定している団体

支援団体数：39 団体

⑤ニチレイ MIRAIterrace 財団 「食を通した居場所づくり応援プロジェクト」助成事務局

実施内容：子どもから高齢者まで、食を通した居場所づくりに取り組まれる団体の継続的な発展を願い、安定的な活動に要する経費の一部助成を目的に実施。

対象：食を通した居場所づくりに取り組まれている団体（活動団体と記載）および食を通した居場所を支援する中間支援団体（中間支援団体）

活動団体：114 団体のうち 27 団体を選出、中間支援団体：15 団体のうち 3 団体を選出

4. 食環境の整備・ロジシステム推進活動

① 食でつながるフェスタ開催・研修等を通じたネットワーク形成支援

シンポジウムへの講師派遣等の他、2017 年より実施している研修会「食でつながるフェスタ」の開催支援を行った。休眠預金事業で連携している 10 地域（青森・北海道・千葉・長野・鳥取・山口・愛媛・

福岡・長崎・宮崎)にて計12回食フェスタを開催し、北海道では活動の認知向上に向けタレントによる基調講演が行われた。長野ではメディアとのタイアップ、山口では市長の参加がある等、社会的認知への働きかけを積極的に実施している地域もあった。いずれの地域でも開催にあたり実行委員会を編成、継続してご相談できる関係性が構築された。

② 企業等各種団体の社会貢献活動との連携

・Yahoo 募金／ぼちっと募金ページの運用管理

・株式会社 LOVST によるフォトスタジオ写真撮影マッチングの実施

都内近郊5店舗にて30組の親子に七五三撮影やセレモニーフォト体験を提供することができた。

・王将フードサービス お子様弁当無料配布

株)王将フードサービスとの協議により、コロナ禍において学校給食がなくなる長期休暇期間の子どもの栄養状態への貢献を目的に王将フードサービスが実施した「お子様弁当」の無償配布に協力。

対象：「餃子の王将」直営店526店舗での受取り可能な団体

全国母子生活支援施設協議会、こども食堂サポートセンター、社会福祉協議会等の中間支援組織と連携し、全国の子ども食堂等居場所運営団体、フードパントリー、母子生活支援施設等へマッチング。また、こども家庭庁からの情報周知により児童養護施設、自立援助ホーム他社会的養護施設、里親にも活用していただくことができた。

実施期間	提供食数	参画団体数	協力機関
8月2日～10日/21日～8月31日(20日間)	101,620食	1374団体	約100団体・機関
12月26日～1月14日(13日間) ※年末年始除く	81,160食	1188団体	
3月26日～4月6日(12日間)	74,065食	1019団体	

・アサヒ飲料および三井住友ファイナンス&リース

子どもの居場所づくり活動に関心のある方や「ミールズ・オン・ホイールズ ロジシステム」に賛同いただける企業・行政・団体等に設置頂いた本自販機の収益およびリース料の一部を寄付いただいた。

③ 各種企業からの物品寄贈支援・協賛支援獲得

【食品・物品の寄贈】ミールズ・オン・ホイールズ ロジシステムの仕組みを活用して、23年度は525トンの食品寄贈を全国のロジハブを通じて分配することができた。定期的な寄贈(22社・団体)が増えている傾向にあり、マッチングの効率化に向けたスキームづくりに企業とともに取り組む等、調整のノウハウ蓄積を図った。

▼寄贈支援企業・団体

公益財団法人キューピーみらいたまご財団／ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社／サントリー株式会社／株式会社ロッテ／株式会社神明／コストコホールセールジャパン株式会社／アサヒグループ食品株式会社／株式会社王将フードサービス／日新製糖株式会社／セキシステムサプライ株式会社／株式会社ナルミヤ・インターナショナル／塩野義製薬株式会社／株式会社 shoichi／株式会社なだ万／株式会社巧芸社／株式会社 LIFULL／今中株式会／株式会社こじま／株式会社 TWPLAN／能美防災株式会社／株式会社ニッスイ 等

【資金による協賛】ミールズ・オン・ホイールズ ロジシステムの仕組みに対し、

三井住友ファイナンス&リース株式会社／大日本印刷株式会社／能美防災株式会社／アサヒ飲料寄付型自動販売機（塩野義製薬）／24時間テレビチャリティー委員会／一般財団法人ニチレイ MIRAI terrace 財団／江崎グリコ バイグリコ活動／株式会社ナルミヤ・インターナショナル 等から協賛いただいた。

日本ヴァリュアーズ株式会社からは、食料費を指定された相談が寄せられたので、報徳食品センター（小田原）とあらかわ子ども食堂ネットワーク（荒川区）に寄付をつなぐことができた。そのほか多様なセクターが参加できる学習会を開催し、本プロジェクトに対する理解の醸成と参画を働きかけた。また三菱食品株式会社からは、見守りクオカード作成費に対する寄付をいただいた。

④ ロジシステム説明会の開催

企業・行政・活動団体がゆるやかに連携することで、食を通じた居場所づくり活動が持続可能な活動となることを目指し、対象者別の説明会を開催した。

【日時】8月10日（木）14時～16時30分

行政向けロジハブ説明会「行政・自治体×食糧支援の仕組みづくりの意義について～ミールズ・オン・ホイールズ ロジシステム学習会～」

【参加者】約70名（約40自治体の担当課が参加）

【プログラム概要】概要説明／活用事例／ディスカッション／分科会

⑤ 物流支援プロジェクト検討委員会の開催

【参画メンバー】株式会社首都圏ホールディングス／マツダ流通株式会社／名豊興運株式会社／アサヒロジ株式会社／公益財団法人キューピーみらいたまご財団／山口県立大学／株式会社 JSOL／幸楽輸送株式会社／株式会社キューソー流通システム／三菱商事ロジスティクス株式会社／長崎ロジスティクス株式会社 他

【プロジェクト概要】各地域で開催されるロジハブ説明会でのご登壇協力のほか、寄贈物資の配送支援、中核ロジ拠点の整備・助言、他地域の物流事業者様のご紹介を賜った。ロジハブ推進に向け、食品メーカーや卸・倉庫事業者など、関係団体との情報交換を行った。

会合実績：5/11、6/7、7/11、8/9、2/15（計5回）

シンポジウム：9/5「配送・保管支援を通じた社会貢献をはじめませんか

～第2回 MOWLS 物流支援プロジェクト～

参加者：約 90 名（企業 16、行政 19、団体 37、他）

⑥ ロジシステム（WEB）の保守・開発

企業に対し WEB システムの登録案内を本格的に開始したほか、ユーザビリティの向上を目的に数量変更機能や回答状況把握機能の搭載、物流・保管支援マップを作成した。あたらしく岩手・静岡・佐賀・宮崎・高知が WEB システムに登録する等、利用が広がっている。

5. ネットワーク形成

①「広がれ、こども食堂の輪！」推進会議 の開催

全国域の幅広い子ども支援関連諸団体との情報共有・伝達を担うことを目的に推進会議を開催。コロナ禍に配慮しオンラインを併用しながら東京で全国エリアの連絡組織が集う場を年 4 回開催した。

●第 20 回（5/15）

事例報告 1. 特定非営利活動法人 地域支援の会さわやか四万十／あったかふれあいセンター「十和」
代表 中平 由起子 氏

2. 一般社団法人ひとり親家庭福祉会ながさき 事務局長 山本 倫子 氏

●第 21 回（7/5）

事例報告 1. NPO 法人つづら 倉田 恭子 氏

2. 特定非営利活動法人豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク 理事長 栗林知絵子 氏

●第 22 回（10/17）

事例報告 1. 消費者庁 消費安全局 食育担当 堂脇 様

2. 北九州市食生活改善推進員協議会 会長 小畑由紀子 様

●第 23 回（3/18）

事例報告 1. 社会福祉法人八尾隣保館 久保田 佳宏 氏

2. Table for two Debra Samuels 氏

② 企業向け学習会（子どもの居場所づくりのための SDGs 交流セミナー）の開催

日時：2023 年 11 月 30 日 13～15 時

開催方法：完全オンライン

参加者：39 名（内、企業 16 社）

内容：概要説明／企業による支援の事例／ご挨拶／分科会

（事例報告：鳥取市河原人権福祉センター 所長 大門 康裕 様／公益財団法人キューピーみらいたまご財団 事務局 堀池 俊介 様／一般財団法人ニチレイ MIRAlterrace 財団 事務局 上野 恭明 様／農林水産省 大臣官房新事業・食品産業部 外食・食文化課 食品ロス・リサイクル対策室課長補佐 浅浦 真二 様）

日時：2024年2月2日14～16時

開催方法：飯田橋レインボービル2C会議室もしくはオンライン

参加者：29名（内、企業20社）

内容：概要説明／企業による支援の事例／コメント／質疑応答・ディスカッション

（事例報告：株式会社ニッスイ サステナビリティ推進部 サステナビリティ推進課 森田 亜紗美 様
／株式会社ロッテ サステナビリティ推進部 企画課 飯田 智晴 様／農林水産省 大臣官房新事業・食品産業部 外食・食文化課 食品ロス・リサイクル対策室課長補佐 浅浦 真二 様）

6. 制度政策・活動推進に関する委員会等

①東京都社会福祉協議会「地域福祉推進委員会」（平野）

②広がれボランティアの輪連絡会議構成団体

③新宿区協働支援会議委員（平野）

④孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム会員

⑤「広がれ、こども食堂の輪！」推進会議構成員・事務局

⑥食品ロス削減の推進に関するワーキンググループ（平野）

⑦地域活性化伝道師（平野）

⑧講師派遣

- ・支え合いをひろげる住民主体の生活支援フォーラム（10月）講演
- ・東村山市「子ども食堂立ち上げ支援講座」（11月）講演
- ・休眠預金POギャザリング（12月）登壇
- ・子どもの居場所づくりセミナー（12月）講演
- ・隣保事業全国研究交流大会（1月）講演
- ・日独食育セミナー（1月）講演

7. その他

①会員管理

正会員128、賛助会員4（令和6年3月末）

②一般社団法人くらしサポート・ウィズ主催のインターンシップ受け入れ

II プロジェクト

1. 休眠預金活用事業 「食の物流ネットワーク整備プロジェクト」〔2020年度～2023年度〕

【目的】中間支援・ネットワーク団体とともに、企業や団体からの食品等の寄付物品を受け入れる中核拠点と、細分化して分配する機能を有するハブ拠点を設け、地域の小規模な子どもを中心とした食の居場所等が企業の支援にアクセスできる新しいロジシステムを整備する。加えて企業・行政・NPO等から成る寄付等地域資源を循環させるプラットフォームの構築を狙いとする。

【事業実施期間】2020年11月～2024年3月

【総事業費】139,771,800円（うち実行団体助成82,150,000円）

【実行団体】一般財団法人北海道国際交流センター／特定非営利活動法人フードバンク山口／鳥取市地域食堂ネットワーク／特定非営利活動法人NPOホットライン信州

【達成状況】各地域にてロジハブ説明会を共催するほか、ポピュレーションアプローチを意識した講演会やボランティア表彰・パネル展示などを通じて課題を知ってもらう機会づくりに努めた。メディアの活用や市長・県知事への支援要望といった活動にも取り組んだ。結果、物流・保管支援の協力事業者の獲得、行政との連携推進の一端を担うことができた。本事業の課題が解決に至ったわけではないが、事業終了後も各地域において継続的に協議ができるネットワークづくりに寄与することができた。

2. 休眠預金活用事業 「多世代が食でつながるコミュニティづくり」〔2022年度～2025年度〕

【目的】対象者別制度や枠組みに囚われない食に関する居場所の機能及び地域住民のエンパワーメントに着目し、地域に住まう様々な人のごちゃ混ぜ感を前提とした「共助」モデルを創出する。

【事業実施期間】2022年11月～2026年3月

【総事業費】211,085,000円

【実行団体】NPO 法人いるか、(社) コミュニティシンクタンク北九州、(社) ひとり親家庭福祉会ながさき、NPO 法人U. grandma Japan、(社) いなかパイプ、NPO 法人ワーカーズコレクティブういず、(社) 青森県社会福祉協議会、(社) LALASOCIAL

【概況】事前評価として実行団体の活動エリアにおいて、2023年度「食」をともなう居場所づくりの支援にかんする調査を実施。行政・社協、食を通じた居場所づくりに取り組む活動団体へ回答を依頼した。アンケート結果を元に、各地の行政やプラットフォームに参画いただくキーマンに向けて指標の共有会を実施した。各実行団体で関係者からなる会合が組成され、課題に基づくフェスタやロジハブ説明会の企画が始まっている。また、実行団体間同士で情報交換、催事での事例紹介といった協働が生まれている。（中四国地方、九州地方など）

なお、(社) LALASOCIAL においては、事業実行体制がないことがわかり JANPIA も交えた協議の結果、本年度中で助成を終了した。

3. 厚労省 令和5年度老人保健健康増進等事業 「『食』を通じた高齢者の居場所づくり活動への支援プラットフォームの形成に関するモデル事業」

【事業概要】「食」を通じた高齢者の居場所づくりに取り組む活動は、担い手の高齢化や資金不足の課題をもつ団体が多い。これらの活動が継続できるよう、第1層/第2層協議体が食材や活動資金、人材等のリソースを地域の活動に提供できるようになる必要がある。そこで、既存の第1層協議体を設置している自治体をモデル地域とし、モデル地域の協議体に対するネットワーク形成支援をしながら、その協議体がネットワークを広げていくプロセス等を調査する。また最終的にモデル事例の報告として、協議体関係者/生活支援コーディネーター/市区町村担当者等を対象とした成果発表会を開催する。

【事業実施期間】2023年4月～2024年3月

【総事業費】13,059,000円

【概況】研究委員会を6回、作業部会を6回実施。3事例（鳥取県鳥取市、福岡県北九州市、青森県五所川原市）へのヒアリング調査を実施。生活支援コーディネーター、自治体、社協、NPO、地域福祉コーディネーター等、生活支援体制整備事業の関係者を主な対象とした研修会「食でつながるプラットフォームづくり研修会」を3回（鳥取県鳥取市、福岡県北九州市、青森県五所川原市）開催。成果報告会として「食でつながるプラットフォームづくり全国研修会」を開催。

【成果】成果物：

- ① 『『食』でつながる支援プラットフォーム形成ガイドブック（仮）』（2000部程度印刷・配布）

4. 「2023年度「食」をともなう居場所づくりの支援にかんする調査」の実施

食のある居場所づくり支援のスキーム構築にあたり、現状と課題を把握する調査を行った。

調査対象：

- ① 対支援機関：

自治体の居場所づくり支援に関連する部局※、地域包括支援センター、社会福祉協議会他

※市民自治、協働推進、NPO促進、地域福祉関係、介護保険関係、

子育て支援・子ども関係学校教育・社会教育・生涯学習関係、環境関係（消費リサイクル含む）、

地域振興・まちづくり等の部局

- ② 対活動団体：

食を通じた居場所づくりに取り組む活動団体

調査方法：オンライン調査

実施時期：2023年8月4日～10月15日

実施地域：

青森県、千葉県、香川県、徳島県、高知県、愛媛県、福岡県、宮崎県、長崎県、一部近隣地域

有効回答数：①行政・社協等(261か所)から268活動、②活動団体から313活動

実施主体：

一般社団法人 全国食支援活動協力会

調査協力：清水洋行研究室(千葉大学人文科学研究院)

原田晃樹研究室(立教大学コミュニティ福祉学部)

5. 令和5年度こども家庭庁「ひとり親家庭等の子どもの食事等支援事業」の実施

【目的】主に子育て世帯を中心とする生活困窮者に対して食を通じた支援を行う団体に対し食品購入（生活必需品・学用品を含む）と活動実施のための助成と食品等の提供を実施することで、その活動の継続支援を行うことを目的とする。

【実施期間】2023年度7月～2024年1月末、2024年2月～3月末

【総事業費】232,990,000円（2023年度7月～2024年1月末）、

40,884,000円（2024年2月～3月末）

【実施内容】

①助成事業

困窮するひとり親家庭を始めとした、要支援世帯の子ども等を対象とした子ども食堂、子ども宅食、フードパントリー等の活動を行う団体に対し、事業実施経費を助成する。

②活動支援事業

困窮するひとり親家庭を始めとした、要支援世帯の子ども等を対象とした子ども食堂、子ども宅食、フードパントリー等の活動を行う団体に対し、活動に使用する食品を提供。(株)高島屋に本事業用の食品購入サイトを用意いただき、申込団体が付与された金額内の食品をサイト上で購入する方法で実施。

6. 令和5年度こども家庭庁「見守り体制強化促進のための広報啓発事業」の実施

【目的】地域の「食」に関連する活動を通じた要支援児童等に対する見守り体制の構築に寄与することを目的とし、こども食堂等、子どもに対する食や居場所、学習機会等を提供する活動団体のうち、先進的に見守り・個別支援に取り組んでいる好事例を調査・集約するとともに、子ども食堂等の活動団体や中間支援団体等に対し、学習会等の開催を行いその好事例を伝播する。

【調査対象】①食を通じて見守り・個別支援の取り組み、②先駆的に子どもの居場所づくり団体を支援している中間支援機能・後方支援を行う下記団体（法人格省略）③企業との連携事例

こどもキッチンブルービー(熊本)/クロモン子ども食堂(東京・品川)/あんだんて(福島)/女性を元気にする会(沖縄)/豊島子どもWAKUWAKUネットワーク(東京・豊島)/こどもの居場所サポートおおさか(大阪)/つなぐ子ども未来(愛知)/U.grandmaJapan(愛媛)/母子生活支援施設ベタニヤホーム(東京)/ふれあい食堂(鳥取)

【学習会】2023年1月17日13:30～16:00

『「食」を通じた地域の見守り～気づいて・つないで・まもるセーフティネットの構築～』Part.2
会場とオンラインのハイブリット開催 会場18名/オンライン112名

【目的】「聴く×気づく×つなぐ」による寄り添い型支援における食の役割、子どもとスタッフが信頼関係を築き安心・安全に活動できる居場所づくりについて学ぶ。

〈講演〉

「マタニティから母子がSOSを言える関係性を地域で作るには」

母子生活支援施設 ボ・ドーム大念仏(ボ・ドーム ダイヤモンドルーム) 室長 廣瀬みどり 氏

〈事例報告〉

「福祉施設が取り組む食を通じた在宅へのアウトリーチ」

母子生活支援施設ベタニヤホーム 施設長 伊丹桂 氏

〈報告〉

「食支援×見守りに関する全国的な動向」

一般社団法人全国食支援活動協力会 専務理事 平野覚治

〈パネルディスカッション〉

≪第二部≫ パネルディスカッション

コメンテーター（（一社）ともしび at だんだん 代表 近藤博子 氏）

ファシリテーター（（公社）ユニバーサル志縁センター 専務理事 池本修吾 氏）

「食を通じた在宅へのアウトリーチと、食のある居場所を支援するために」実践報告で発表した団体と、委員による討論

【総事業費】 2,552,000 円

7. 篠原欣子記念財団 こども食堂応援プログラム

【目的】子どもの安心・安全な居場所づくりのために、子ども達自身が困った際にすぐにSOSを出せるよう、表面に緊急連絡先を記したクオカードを配布。同時に「今日食べるものがない。」という状態の子がコンビニエンスストアに駆け込んで食べられるようにできるようにする。

【実施内容】困ったときの相談先」HPのQRコードを記載したQUAカードを250枚制作。子どもの居場所に置いておき、何か困った時に子どもにお渡しできるよう全国23団体へ配布した。

【総事業費】 575,000 円

8. 農林水産省「フードバンク活動支援：フードバンク活動団体の先駆的取組支援」

【目的】各地域のネットワークによる全国への食糧支援の取組「ミールズ・オン・ホイールズ ロジシステム」の全国的な普及・深化を図ることを目的として、新規拠点の参画・賛同企業の開拓に向けた寄付情報システムの機能拡充・使用性向上、活動の周知に向けた広報活動に取り組む。

【実施期間】 2023年8月～2024年2月

【実施内容】

- ① 「ミールズ・オン・ホイールズ ロジシステム」広報資料作成
プロジェクト周知のための広報資料（チラシ等宣伝材料）を作成した
- ② ロジシステム（WEB）の機能追加・改修
ロジハブシステムにおいて調整・分配を担っているWEBシステム（稼働中）についてユーザビリティを改善させるために一部機能の追加・改修を行った
- ③ 地域ネットワーク形成のための打ち合わせ
ロジハブシステム導入について相談があった地域に対し、対面／オンラインにて打ち合わせを行った。

【総事業費】 3,710,181 円

9. 休眠預金活用事業 「相談支援機能付き食支援体制整備事業」〔2023年度～2024年度〕

【事業概要】見守り・個別支援活動に取り組む食支援活動団体へ伴走支援をしながら相談支援・物資支援を行う中間支援団体に対して、コーディネートにかかる費用及び支援食品・物資の購入費用を助成する。生活課題が深刻化した地域の子ども、子育て世帯へこども食堂等居場所と連携しながら食支援を通じたニーズ把握、アウトリーチ活動を行うための取組を支援する。

【事業実施期間】2023年11月～2025年3月

【実行団体】NPO法人ユナイテッドかながわ、(社福)琴平町社会福祉協議会、NPO法人子どもたちの未来を応援するオアシス丸亀、NPO法人フードバンクセカンドハーベスト沖縄、一般社団法人つながり探究所、社会福祉法人大幸会、(社福)那覇市社会福祉協議会

【概況】公募(追加公募含む)を実施し7団体を採択。2月8日-9日2日間にかけて内定団体への事前オリエンテーションを行い、子ども村ホッとステーション・荒川区社会福祉協議会のご協力のもとロジハブ・居場所の現地視察、見守りのある食支援にかんする地域連携について講義をいただいた。

【総事業費】160,519,000円

うち実行団体へ助成：126,000,000円

10. MOWSA (ミールズ・オン・ウィールズ・サウス・オーストラリア) 交流プロジェクト

南オーストラリアのアデレードにある MOWSA、サウスオーストラリア・ミールズオンホイールズ協会の法人本部と活動拠点に訪問し、互いの食支援活動の情報交換及び MOWSA メンバー・活動ボランティアとの交流を図った。他、「FoodbankSA」(豪最大規模のフードバンク)、「Oz Harvest」(ケータリングのフードバンク)へ訪問、情報交換を行った。そして、日豪の食支援活動の交流を促進するために、次年度日本にて日豪シンポを開催することについて協議を行った。(訪問者:平野専務理事、清水理事、事務局)

訪問日：2023年4月15日～23日

スケジュール：

- 4/17 法人本部視察(セントラルキッチンをはじめ、新しい事務所を細部までご案内いただく)
Sharyn Broer・ELTメンバーとの昼食・交流、Oz Harvest・FoodbankSAへ訪問
- 4/18 Hindmarsh Kitchen 視察・調理体験、法人本部にて法人本部メンバーと昼食・交流
MoWA 理事メンバーおよび MoWJ 理事メンバーでオンラインをつなぎ意見交換
Adelate Central Market 視察、Julie Bonnici のご自宅で夕食
- 4/19 MoWSA Cooking Group Edwardstown (MoWSA 支所)へ訪問、料理教室を視察
MoWSA 本部メンバーとランチ交流会、MoWSA 理事長退任式に出席
- 4/20 Barossa Valley 視察、街歩き
- 4/21 オーストラリアの郷土料理調理体験、街歩き、ELT メンバーとの送別会